

## 2023（R5）年度 農牧場実習アンケート結果（学外）

農場実習後、参加者に実習から「学んだこと」「考えの変化」「満足度」に関する17の設問について5段階評価でアンケート調査を行った。

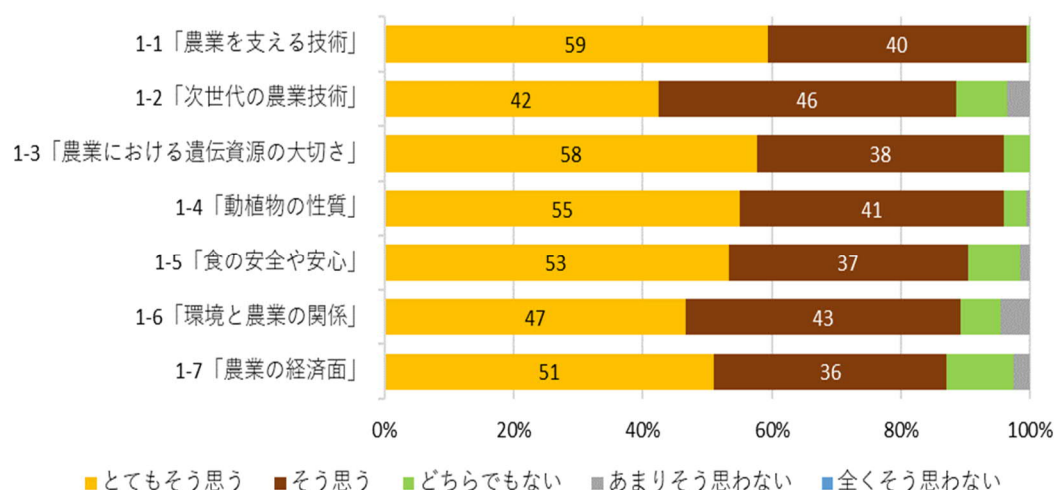
### 調査対象者

アンケート回答者は200名（うち教員3名）であった。そのうち、留学生は0人、男女比は女性が多かった。回答者の所属学部は、農学系から栄養系などの理系学部以外にも、経営や福祉関係の学部（その他）に所属する学生からも回答を得た。学年別にみると、3年生が多かった。

		n	割合(%)			n	割合(%)
所属	国内	200	100.0	学年	1年生	33	16.5
	国外	0	0.0		2年生	15	7.5
性別	男性	67	33.5		3年生	139	69.5
	女性	130	65.0		4年生	7	3.5
	無回答	3	1.5		院生	3	1.5
学部	農学系	11	5.5		教員	3	1.5
	獣医・畜産系	40	20.0		計	200	100.0
	生命・環境系	104	52.0				
	生物・地球系	13	6.5				
	栄養系	16	8.0				
	その他	16	8.0				

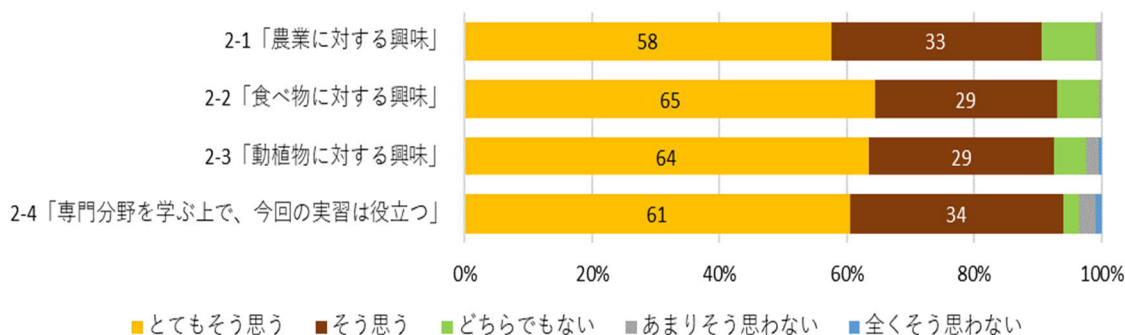
### 実習参加による学習効果

「実習参加による農業や食に対する学びや考えの変化」に関する7つの設問では、全体の約87～99%の回答者が「とてもそう思う」「そう思う」と答えた。この結果は、昨年度の結果をほぼ維持しており、その中でも「農業における遺伝資源の大切さ」「食の安全や安心」の学習効果が増加した。これは、実際の作業だけではなく、品種の説明や取り組んでいる動植物の育種や保全、さらには食の安全教育などの説明を丁寧に行うことが学生の理解を深めることに貢献したと考えられる。



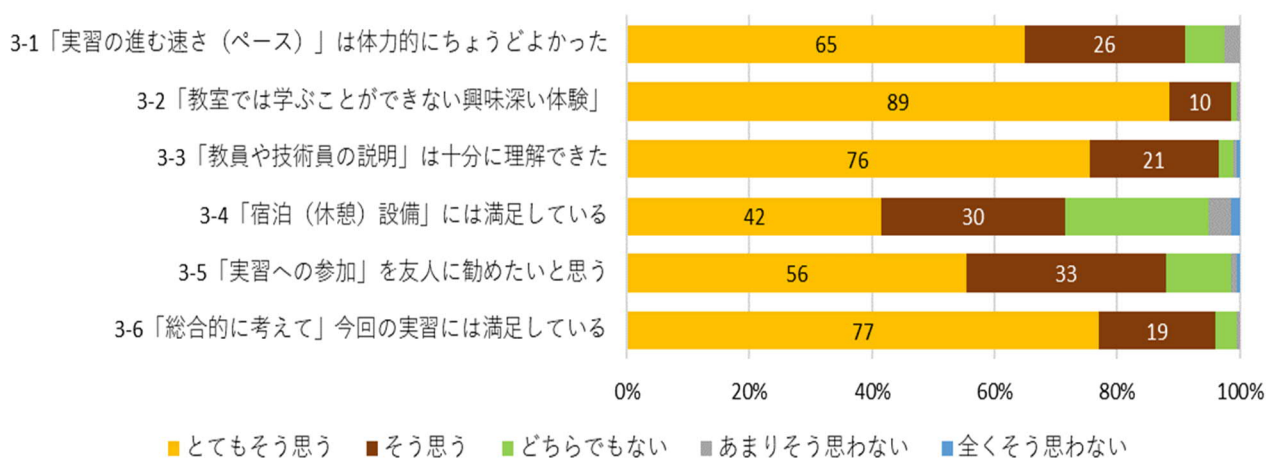
## 実習後の考えの変化

実習後の考えの変化に関する設問では、「農業」「食べ物」「動植物」に対する興味、「専門分野を学ぶ上で、今回の実習が役立つ」の4つの全ての設問で、9割以上の回答者が「とてもそう思う」「そう思う」と答えた。昨年度と比較すると、「食べ物」「動植物」に対する興味の設問で「とてもそう思う」と答えた回答者の割合が増加した。また、「専門分野を学ぶ上で、今回の実習が役立つ」の設問では、昨年度に比べて「とてもそう思う」「そう思う」と答えた回答者の割合が増加した。一方で、昨年度よりは減少したものの、7名（5名、2名）の学生が「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した。



## 実習への満足度

「実習の進む速さ（ペース）」については、全体の9割近くが無理なく参加出来たと回答していたが、改善点の自由記述では、夏の暑さに対して改善を求む意見もあり、時期や休憩の取り方など改善に努める必要がある。また、例年通り「教室では学ぶことができない興味深い体験」と「教員や技術員の説明は十分に理解できた」の満足度が98%以上となり、参加した学生へ満足できる経験や学びを提供できたと考えられる。また、一方で「宿泊（休憩）施設には満足している」は他の設問に比べて満足度が低く、昨年度と同様の結果となった。具体的・詳細な内容は「自由記述で挙げられた改善点・要望のまとめ」に挙げているが、施設の設備や清潔感に関する不満が多かった。「総合的な満足度」では96%の回答者が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しており、実習に対する評価が非常に高かったと考える。



※アンケートの選択肢である「今回は学んでいない」の回答は、アンケートの集計から除外している。